



PTA

佐和

No. 70

ひたちな



7/13 江戸川学園取手
VS
佐和
5-1 2回戦
敗退

発行日 令和元年9月27日
発行者 茨城県立佐和高等学校PTA広報委員会

佐和高公式ツイッター&ライン



夏大も終えて

野球部主将 三年 松原 渉

自分達の目標には届きませんでしたが、皆の力強い応援のおかげで全力を尽くす事が出来ました。応援ありがとうございました。私達野球部は、これからも学校に貢献します。

野球応援もおえて

チアリーダー長 三年 本間 凜

お疲れ様でした！今回の野球応援が三年間で一番楽しかったです。野球部の皆さんが必死で戦っている姿は最高にかっこよくて、感動しました。ありがとうございました！

野球応援もおえて

応援団長 三年 根本 夏季

「相手の応援に負けない。」野球部も頑張っているから、応援でも勝ちたいという気持ちで挑んだ三年間でした。まとめることの難しさや、仲間の絆の大切さを学びました。

PTA会長 あいさつ



PTA会長 加藤 貴之

二人にちは、
加藤でございます。

明るく楽しい佐和高校の時間を、生徒はもちろん、我々保護者や先生方にも過ごしていただけるよう活動していきたいと思っております。繋がりがやコミュニケーションを通して楽しさを、活動の中で感じていただけたらと思います。

PTA関東大会

第64回関東地区高等学校PTA連合会埼玉大会に参加して

教員 龍崎 由美子

令和になって最初のPTA関東大会が、7月12・13日の両日にわたり埼玉県の大宮ソニックシティで開催されました。本校からは根本哲也副会長・川崎亨 泣きの声が聞こえるほど熱のこもったも 崎合わせて4人が参加しました。

今大会では、本校PTAが顕著な活動をしたという事で賞状をいただくことができました。その後の講演会では、土曜日の朝の旅番組の司会を長くつとめるタレント向井亜紀氏による「夢が生



PTA全国大会

PTA全国大会に参加して

PTA会長 加藤 貴之



「Kyotoから！未来を拓く」を受け継ぎ、創る新たなストーリーをテーマとした、第69回全国高P連京都大会に参加させていただきました。初日の分科会では、LINE社様から話がありました。伝えるには表情や声の大きさ、状況判断が必要であることと、相手その言葉はどう思うかという考え方を想像する力が必要であるということでした。二日目の講演は日本電産株式会社の会長様でした。これからの教育は英語力、社会の仕組みを知る専門性、人間力の育成に重きをおくことと、子供が何をやりたいか自分で決める為に、親の関わり方がとても重要だと仰られておりました。これからも子供と関わって行く上で、古都での2日間は学びが多かったです。

第2学年

PTA研修会

研修会に参加して

今回の研修会、テーマはズバリ「お金！」。卒業後進学先別に、あるいは自宅か独立か、それぞれについてどれ位の金額がかかるのか等、具体的に内訳を細かく説明していただきました。学習にばかり注目していたのに目からウロコの出費もあり、ビックリです。皆様もぜひ参加を!!



覆面PTA



後期のPTA行事

◆お知らせ◆
これからの参加型PTA行事の予定をお知らせします。

◆第一回PTAふれあい講座（6月27日予定だったものが移動）

11月21日（木）午後1時
「お弁当に役立つ作り置きおかず」

◆PTA研修旅行
11月23日（土）

浅草寺参拝、ホテルランチ、浅草フランス座お笑い鑑賞
◆第二回PTAふれあい講座

12月14日（土）午前9時
「そば打ち講座」

令和元年度PTA役員

役職	会員氏名	役職	会員氏名
会長	加藤 貴之	監査	川崎 亨
副会長	菅原 善子	監査	葛西真理子
副会長	菊池 妙子	監査	菊池 裕子
副会長	根本 哲也	後援会長	鈴木 快昌
書記	大部 則子	顧問	橋本 典彦
会計	川又 直美	顧問	助川 美佐



「ボランティア講話」を聞いて

1年1組 大谷 晃生

私は今までボランティアをしても見返りが欲しくてやっていました。しかし綿引さんのお話を聞いて、小さなことでも他の人の役に立てることやボランティアの美しさを教えていただきました。また、泥だらけになりながらも復興作業に取りくむ人を見て「人の美しさはここからきているのだ」と感じ少し涙が流れました。今回のことを心にとめ、「人として」の美しさを忘れず、ボランティアを進んでやっていきたいと思います。

2年 根本 恵瑞

私達のクラスは視覚障害者の方の話と、点字の体験をしました。

講師の先生の話聞いて、私は視覚障害者の道具やスポーツ、マークなどを知りました。困っているときのポーズも教わったので、見かけたら、臆せず声をかけたいと思います。

点字体験では、実際に点字を打ちました。点字には独特のルールがあり、慣れるのに苦労しました。

この活動を通して、もっと障害者のこと、点字のことを知りたいと思いました。



全校ボランティアデーに参加して

3年 森本 汐寧

3年生は車椅子体験や介護体験などいくつかのコースに分かれた中で、私は認知症についての講話を聴くことができました。まず、現在認知症と呼ばれる方が身の回りにどのくらいいるかをはじめ、知識的なことを学びました。また後半は、実際に介護の現場で働いている方々による寸劇でした。その劇の中で、認知症の方とのかかわり方をイメージしやすく伝えてくださいました。たとえば「物がなくなった」という認知症の方にはこちらから一方的に「ここにある」と言うのではダメで、患者さん本人が自分で見つけられるように優しく促すことが大事だそうです。認知症の方と一緒に暮らす家族がどのように接すれば嫌な気持ちにならず過ごせるのか、多くのヒントをいただきました。

最後に自分に出会えるものと信じています。発行にあたり、広報委員の皆様には大変お世話になりました。誌上を持ちまして感謝申し上げます。

私自身何気ない気持ちで参加したボランティア活動でしたが、自分なりに車窓からの景色や銚子の灯台の役割などを懸命に語り続けるうちに、「自分はこの生徒に何をしておられるか」ということに夢中になっていく自分に気付きました。

一日が終わり、いよいよお別れという時、生徒は大きな目を開け、私の目をしっかりと見返して、瞳で「ありがとう」と心からの言葉で語ってくれました。感激しました。その時の光景は35年経った今でも脳裏に焼き付いています。

佐和高校は様々なボランティア活動が盛んです。みなさんにはボランティア活動を通じて「自分は何のために何ができるか」を考え、「自分自身とは何か」を知る契機にしてほしいと思います。佐和高校の生徒は、「心が素直で温かく素晴らしい生徒だ」といつも私は思っています。あとは「勇気をもって一歩踏み出すこと」だけです。それだけできつともっと素晴らしい自分に出会えるものと信じています。

20歳の頃、私は特別支援学校のボランティア活動に初めて参加しました。活動内容は犬吠埼灯台までの遠足の補助員。私の担当する生徒は中学二年生の女子生徒で、ALS（筋萎縮性側索硬化症）という難病を患っており、歩行が困難なことから車椅子での移動を補助することが、私に課せられた役割でした。

当日の朝「今日一日担当する渡邊です。」と声をかけると生徒は恥ずかしそうに目を大きく開けニコツとしましたが、なかなか上手に会話をすることはできませんでした。それでも日々を懸命に生きていくこと、何よりその日の遠足を心待ちにしていたことだけは、ふとした仕草や表情から感じとることができました。



校長 渡邊 政美